

【活動の主題】 土曜学習会「土曜バチスタ」

【副題】 地域とともに自主的に学習に取り組む生徒を育成する

【学校名】

米原市立 河南中学校

## 1 本校の概要

現任校のある河南学区は国道 21 号線を挟むのどかな山間の町で地域住民も地元の方が多く、教育活動に理解があり大変協力的なところである。地域連携において学校運営協議員の方々との親交を深め、また、河南小学校とも連携しながら地域の方々が教育活動に関わっていただく機会を拡充している。

本年度は学校教育目標を「河南中 BEAMS～生徒の輝きを未来に放つ！人権・学力・地域愛～」と改め、従来からの人権教育はもとより、基礎学力の定着と地域に根差した教育を軸に、生徒の自己肯定感と自己有用感を育んでいきたいと考えている。

## 2 取り組んだ内容

～土曜バチスタ（土曜学習会）の開催～

バチスタとは、「バッチリ・スタディ」の略である。基礎学力の定着と、学習習慣の確立を目的とし、定期テスト前など年間 15～16 回、土曜日の午前中 3 時間、多目的室を利用し行っている。多い時は全校生徒（本年度は 63 名）の半数近くが参加する。生徒は自分の学習したい教材を持参し自習をする。講師として、河南中学校の卒業生である地域在住の大学生を任用し、学習がはかどらない生徒や学力が振るわない生徒に積極的に支援をしてもらっている。（地域学校協働本部の学習支援予算を適用）

勉強が苦手な生徒も大学生の先輩に横について教えてもらえるという安心感から参加者が増えつつある。また、3 学年とも同じ部屋で学習することから、上級生が下級生を教える姿や同級生が教え合いをする姿も見られる。強制的な参加ではなく、自分の意志で時間を決めて参加する。午前 9 時スタートで 12 時終了とし、この時間帯に入退室は自由である。（ただし退出時には教師に申し出る。）



学習会の様子

## 3 活動の成果

コロナ禍以降、参加人数が減っていたので、その原因を探ってみると、参加した生徒から「参加しても一人では勉強の仕方がわからない。」「質問したくてもできない。」といった声があった。従来の自主学習のスタイルでは家庭学習で行き詰る生徒にとっては支援がないと学習が進められないという弱点がある。

そこで、令和 6 年度に、講師の大学生の方に、より積極的に支援をしてもらうよう依頼をした。学習が進まなく困っている生徒を見分け、声をかけ、支援する方法を伝えた。また、土曜日の部活指導に来ている先生方にも部活指導の合間に少しでも学習会に顔を出し、励ましの声をかけてもらうように依頼した。その結果、生徒たちが積極的に質問できる雰囲気ができ、学習会そのものに活気が出てきた。参加人数も延べ 200 人を超え、生徒が気軽に参加できる学習会となった。

また、学習会の日程をテスト前に絞り、生徒が意欲的に参加できるように設定した。学習会の中でテスト前の提出物に取り組む生徒も多く、テスト勉強もはかどるようになったという声がある。令和 7 年度は延べ 240 人近くが参加をしている。

令和 7 年度は、地域コーディネータの方に講師探しを依頼し、講師の大学生の任用数を 3 人から 5 人に増やし、生徒が支援をしてもらえる機会が多くなるようにした。大学生にとっても後輩たちとのコミュニケーションは楽しいものであり、地域の大学生を起用することは今後の地域人材の育成にもつながっている。

生徒たちが自ら学習しようとする意欲を見逃さず、適切な支援を施すことが生徒の意欲を持続させ、基礎学力を定着させることにつながると考える。今後の土曜バチスタが生徒にとって意義のある場所となるよう、継続の在り方を模索していきたい。

